

研究 労働法・経済法

- 別冊 1 宮本安美
「定年延長と賃金・退職金規程の見直し 大曲市農協事件判決(最3判
昭 63.2.16)と第四銀行事件判決(新潟地裁判昭 63.6.6)を中心に 」
(1988.7)
- 別冊 2 宮本安美
「国際化と労使紛争 事例を通してみた紛争調整上の留意点 」
(1991.1)
- 別冊 3 松本和彦
「ドイツにおける社会法概念の展開 その法思想的意義 」
(1991.6)
- 別冊 4 宮本安美
「労使関係法の現代的課題」(1993.8)
- 別冊 5 増田幸弘
「現代アイルランドにおける労使関係法の展開とその特質 1990年
労使関係法を中心に 」(1993.8)
- 別冊 6 舘野仁彦・宮本安美・小林哲史
「使用者概念の拡大と労働者派遣」(1994.3)
- 別冊 7 増田幸弘
「生別母子家庭における子どもの生活保障と社会保障法 オーストラ
リア児童扶養法の改革とわが国の課題 」(1994.3)

『組織行動研究』モノグラフ

第1号 1977年9月刊

No.1 わが国大学組織における学生の「自我同一性確立過程」の長期的追跡研究

予備報告：産業組織におけるリーダーの「社会化システム」
としての大学組織

No.1 Japanese private university as a socialization system for
(補遺1) future leaders in business and industry

No.2 わが国産業組織における大卒新入社員の「役割獲得過程」の長期的追跡研究 予備報告：研究の概要

No.2 わが国産業組織における「能力主義」の実践
(補遺1) その論理・行動・背景

No.2 Transition from school to office : A longitudinal
investigation of the process of the Japanese college
graduates' becoming managers

第2号 1977年9月刊

No.3 わが国産業組織における「管理能力」アセスメントの研究
「日本版インバスケッ・テスト」の開発をめざして

No.3 A bibliography on identification and assessment of
(補遺1) managerial talent

No.4 わが国産業組織における「働きがいと生きがい」の研究
ハーズバーグの「職務満足の二要因理論」をめぐる諸問題

No.4 Effects of job enrichment upon perception, communication
(補遺1) and attribution processes

第3号 1977年9月刊

No.5 日本人の「対人行動」の実験社会心理学的研究
交通事故に対する「責任判断」への帰因的アプローチ

No.6 日本の「文化構造」の社会心理学的研究 1966年^{ひのえうま}丙午年の
出生激減現象の分析をとおして

No.7 日本人の「異文化への適応・同化過程」の比較社会心理学的研究
「文化的同化訓練法」(Culture Assimilator)の開発を
めざして：タイ国における事例(1)

第4号 1979年3月刊

No.8 日本における「組織行動」研究の現状と課題
ひとつの覚えがき

No.9 社会行動の「交叉文化的研究」における問題と課題
ひとつの覚えがき

No.10 日本人の「異文化への適応・同化過程」の比較社会心理学的研究
「文化的同化訓練法」(Culture Assimilator)の開発をめ
ざして：タイ国における事例(2)

第5号 1979年3月刊

No.11 現代に生きる児童・生徒の「価値意識」調査
「家庭」に関する価値意識

第6号 1980年3月刊

No.12 わが国産業組織における大卒新入社員のキャリア発達過程
その継続的分析

第7号 1980年3月刊

No.13 Management career progress : Japanese style

第8号 1981年3月刊

No.14 わが国産業における「管理能力アセスメント」の研究
「インバスケット・テスト」の開発とその選抜使用可能性
の検討

第9号 1982年3月刊

No.15 中小企業における「女性経営者」の成長歴・生活・経営観
都内42社(42名)の面接調査にもとづく事例研究

第 10 号 1983 年 3 月刊

- No. 16 都内における「コミュニティ形成」基盤の把握と診断
東京首都圏・武蔵野及び三鷹の二地域をフィールドとして

第 11 号 1984 年 3 月刊

- No. 17 わが国産業組織における大卒新入社員のキャリア発達過程
入社 7 年目時点でのフォロー・アップ
- No. 18 The Japanese career progress study : A seven - year
follow up

第 12 号 1985 年 3 月刊

- No. 19 対集团的認知構造の分析
- No. 20 終身雇用下における技術者のキャリア発達過程
「個人と組織の統合」の視点から探索的研究

第 13 号 1986 年 6 月刊

- No. 21 わが国産業組織における「管理能力の開発と訓練」について
の研究
「訓練用インバスケッ・ゲーム」の開発ならびに中堅
管理者研修への適用
- No. 22 組織における個人のキャリア形成のこれまでとこれから
都市部ホワイトカラー 1,379 名の「キャリア意識」調査
から

第 14 号 1988 年 7 月刊

- No. 23 組織内ネットワークと組織成員の知覚・行動
ネットワーク位置特性による知覚と行動の構造化

第 15 号 1988 年 7 月刊

- No. 24 経営国際化のための海外派遣留学 MBA の有効活用
ライフサイクル理論によるアプローチ

第 16 号 1990 年 4 月刊

- No. 25 WAI 技法を用いた自我の実証的研究(1)

- 第 17 号 1990 年 4 月刊
No.26 筆跡とパーソナリティの関連についての実証的研究 その 1
- 第 18 号 1990 年 12 月刊
No.27 ヴィデオ映像を用いた対人認知に関する基礎的研究
- 第 19 号 1991 年 4 月刊
No.28 WAI 技法を用いた自我の実証的研究(2)
- 第 20 号 1991 年 4 月刊
No.29 筆跡とパーソナリティの関連についての実証的研究 -その2-
- 第 21 号 1992 年 3 月刊
No.30 WAI 技法を用いた自我の実証的研究(3)
- 第 22 号 1992 年 3 月刊
No.31 現代日本人の生き方 生活観の構造と変容 その 1
- 第 23 号 1993 年 3 月刊
No.32 現代日本人の生き方 生活観の構造と変容 その 2
- 第 24 号 1993 年 3 月刊
No.33 WAI 技法を用いた自我の実証的研究(4)
- 第 25 号 1993 年 3 月刊
No.34 パーソナリティ診断に於ける K0 式テスト・バッテリーの
作成
No.35 絵画空想法(Short Form)作成の試み
施行簡便化のための一実験
No.36 Dosefu グループ・テストの改訂
No.37 精研式文章完成法テスト(SCT)評価と評価者のパーソナリティ
の関係について
- 第 26 号 1996 年 3 月刊
No.38 研究人材マネジメント：そのキャリア・意識・業績(1)
- 第 27 号 1997 年 3 月刊
No.39 研究人材マネジメント：そのキャリア・意識・業績(2)
No.40 対中国ビジネスの実証的研究

第 28 号 1998 年 3 月刊

No. 41 研究人材マネジメント：そのキャリア・意識・業績(3)

No. 42 日本企業の国際取引における交渉の研究

アジア，アメリカ企業との技術取引，企業買収(2)

No. 43 『リストラ』とストレスに関する考察

第 29 号 1999 年 3 月刊

No. 44 研究開発マネジメント 研究と開発の比較

No. 45 研究開発マネジメント 日本と外国の比較

第 30 号 2000 年 8 月刊

No. 46 研究人材マネジメント 最終報告

第 31 号 2002 年 12 月刊

No. 47 これからの評価制度

Keio Economic Observatory Monograph Series(英文・和文)

- No.1 Tsujimura, K., Kuroda,M. and Shimada, H.. (1981) , *Economic Policy and General Interdependence - A Quantitative Theory of Price and Empirical Model Building*, 402P.
- No.4 Shimada, H. (1981),
Earnings Structure and Human Investment - A Comparison Between the United States and Japan, 162P.
- No.5 Yoshioka, K., Nakajima.T., Nakamura, M. (1994),
Sources of Total Factor Productivity - For Japanese Manufacturing Industries, 1964-1988 : Issues in Scarc Economics, Technical Progress, Industrial Policies and Measurement Methodologies, 92P.
- No.6 岩田暁一・西川俊作 編 (1995),
『KEO 実証経済学 - 小尾恵一郎教授・尾崎巖教授退任記念 - 』
- No.7 池田明由, 菅 幹雄, 篠崎美貴, 早見 均, 藤原浩一, 吉岡完治 (1996),
『環境分析用産業連関表』
- No.8 新保一成, 野村浩二, 小林信行(1996),
『KEO データベース - 産出および資本・労働投入の測定 - 』
- No.9 Hayami, H. (2000),
Employment Structure in the Regulatory Transition - Evidences from the Linked Microdata in Japan, 229P.

Keio Economic Observatory Review

No.1 物価分析特集

・スタグフレーションと市場機能

1. 市場競争理論の再考

需要バランスと競争圧力

辻村江太郎

2. スタグフレーション期におけるトイレット・ペーパー市場の分析

續 幸子

3. スタグフレーションと企業の在庫投資行動

吉岡 完治

・日本経済の供給構造と価格変動

黒田 昌裕

(1975年7月, 166P.)

No.2 特集：労働市場の分析

・性別労働需要の理論モデル

小尾恵一郎

・労働需要の実証分析

桜本 光

(1978年7月, 122P.)

No.3 特集：消費者選好と市場

・商品別市場機能分析から見たスタグフレーションの発生と終息

續 幸子

・エッジワースを中心とする市場論理の再検討

吉岡 完治

・60費目分割による消費者選好場の測定と結果の分析

牧 厚志

(1978年7月, 216P.)

No.4・5 合併号

家計労働供給の観測と理論の構成

供給法則の探索過程

小尾恵一郎

(1983年12月, 482P.)

No.6

1. わが国製造業における規模の経済性

吉岡 完治

2. 有配偶女子雇用就業確率への実証的アプローチ

樋口 美雄

松野 一彦

3. 在職老齡年金の就業構造にあたる効果にかんする統御実験

清家 篤

(1985年9月,126P.)

No.7 特集：「競合・補完」理論の再検討

第 部「Fisher-Friedman= 續 - 辻村 (FF-TT) の定義」と交叉価格弾性

辻村江太郎

第 部「競合・補完」理論と実証分析

續 幸子

(1987年7月,105P.)

No.8 Obi, K.,

“An Equilibrium Model of Continually Heterogeneous Labor Market”

Obi, K.,

“Measurement of The Distribution of Reservation Wage Using Household Data : Price of Labor From Preference Maps for Income and Leisure”

Evans Jr., Rovert,

“United States Labor Market Regulation”

Evans Jr., Rovert,

“The Role of Fairness and Unity of Treatment in Japanese Labor Markets”

Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.,

“The CO₂ Emission Score Table for the Compilation of Household Accounts”

Hayami, H., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.,

“Application of the Input-Output Approach in Environmental Analysis in LCA”

Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.,

“A Simulation Analysis of the Environmental Effects of Energy Saving Housing”

Fujiwara, K., Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.,
“Recommending the Use of Blast Furnace Cement to Reduce CO₂
Emission”,

(Mar. 1996, 144P.)

Keio Economic Observatory Occasional Paper

(英文シリーズ)

1984 年

- E . No.1 Kuroda, M. and Imamura, H.,
“Quality Changes of Labor Input in Japan”, 39P.

1985 年

- E . No.2 Kuroda, M. and Yoshioka, K.,
“The Measurement of Sectoral Capital Input”, 26P.
- E . No.3 Matsuno, K. and Higuchi, Y.,
“An Econometric Analysis of the Labor Supply of Married
Females in Japan ; A Model of the Choice between Part-time
and Full-time Employment Opportunities”, 61P.
- E . No.4 Hamaguchi, N.,
“Structural Change in Japanese-American Interdependence :
A Total Factor Productivity Analysis in an International
Input-Output Framework”, 115P.
- E . No.5 Maki, A.,
“ The Estimation of a Complete Demand System using the
Marginal Rates of Substitution”, 26P.
- E . No.6 Iwata, G.,
“ The Anticipation Structure in the Financial Futures
Options”, 32P.
- 1987 年
- E . No.7 Obi, K.,
“Observations vs. Theory of Household Labor Supply”, Vol.1
236P.

1988 年

- E . No.8 Shi Li-He,
“ An analysis of The Production Function of the Technical
Structure of Chinese Agriculture”, 27P.
- E . No.9 Obi, K.,
”Observations vs Theory of Household Labor Supply”, Vol.2
138P.
- E . No.10 Matsuno, K.,
“Formulation of a Quantal Response Model and Its Application
to the Labor Supply of Married Females Facing Multiple
Employment Opportunities”, 50P.

1989 年

- E . No.11 Inagawa, N.,
“Economies of Scale, Technology, and Intra-Industry Trade”,
20P.

1991 年

- E . No.12 Obi, K.,
“Household’s Labor Supply Function in Terms of Numerical
Income - Leisure Preference Field”, 28P.

1992 年

- E . No.13 Matsuno, K.,
“Bayesian Estimation of Discrete Choice Models : Labor
Supply of Multiple Household Members”, 37P.

1994 年

- E . No.14 Obi, K.,
“An Equilibrium Model of Continually Heterogeneous Labor
Market”, 30P.

- E . No.15 Obi, K.,
“Measurement of The Distribution of Reservation Wage Using Household Data : Price of Labor From Preference Maps for Income and Leisure”, 30P.

1995 年

- E . No.16 Robert Evans, Jr.,
“United States Labor Market Regulation”, 17P.
- E . No.17 Robert Evans, Jr.,
“The Role of Fairness and Unity of Treatment in Japanese Labor Markets”, 31P.
- E . No.18 Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.
“The CO₂ Emission Score Table for the Compilation of Household Accounts”, 19P.
- E . No.19 Hayami, H., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.
“Application of the Input-Output Approach in Environment Analysis in LCA”, 21P.
- E . No.20 Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.
“A Simulation Analysis of the Environmental Effects of Energy Saving Housing”, 21P.
- E . No.21 Fujiwara, K., Hayami, H., Ikeda, A., Suga, M., Wong, Y.C. and Yoshioka, K.
“ Recommending the Use of Blast Furnace Cement to Reduce CO₂ Emission”, 13P.

1998 年

- E . No.22 Tsujimura, K. and Tsuzuki, S.,
“ A Reinterpretation of the Fisher-Friedman Definition of Complementarity”, 44P.

1999年

E. No.23 Hayami,H. and Abe,M.,

“Labour demands by age and gender in Japan : Evidences from linked micro data”, 42P.

(和文シリーズ)

1985年

J.No.1 續 幸子・辻村江太郎,

「競合・補完理論の再検討

スツルキー式から見たフィッシャー・フリードマンの定義,
とその一般化」46P.

1986年

J.No.2 佐々波楊子・黒田昌裕・清水雅彦・菊池純一・浜田 登,

「中国の工業化と製品貿易拡大の可能性

北京,大連,天津における現地調査報告」40P.

J.No.3 代表 佐々波楊子,

「中国経済文献目録 対外経済関係を中心として」81P.

1987年

J.No.4 馬成三,

「中国の改革・対外開放政策と中日経済関係

供給隘路についての現地調査報告書」28P.

1988年

J.No.5 佐々波楊子・黒田昌裕・吉岡完治・浜口 登・樋口美雄,

「中国工業製品貿易拡大の可能性とその影響」19P.

J.No.6 吉岡完治・施 礼河,

「日中対応産業連関表の作成」70P.

1989 年

J.No.7 佐々波楊子・黒田昌裕・吉岡完治・菊池純一・宮内 環,
「中国工業製品貿易拡大 供給隘路への政策的対応 」 29P.

J.No.8 早見 均,
「賃金変動パターンの日米比較分析
市場調整機能と賃金硬直性概念の再検討 」 30P.

J.No.9 中島隆信,
「経済の外部性と企業の業務多角化メリット」 19P.

1990 年

J.No.10 池田明由,
「資本に体化された技術変化の基礎的研究」 34P.

J.No.11 吉岡完治,
「労働時間短縮の効果についての一試論」 14P.

J.No.12 中島隆信,
「経済の外部性と金融業の業務多角化」 19P.

J.No.13 中島隆信, 河井啓希,
「KE0 モデルの国際面での拡張に向けての一試論
マンデル=フレミングモデルによる日米経済のマクロ分析
1970 - 87」 9P.

J.No.14 早見 均,
「雇用量,労働時間,投資の決定図式」 27P.

J.No.15 吉岡完治・新保一成,
「KE0 多部門モデル作成と「時短」の経済効果に関するシミュレーシ
ョン」 166P.

J.No.16 中島隆信,
「電気通信産業のコスト構造分析 近年の研究のサーベイ 」
20P.

J.No.17 河井啓希,
「家計属性と消費構造 横断面分析 」 32P.

J.No.18 河井啓希,
「勤労者家計における世帯分布および消費分布の変化 時系列分
布資料の推計 」25P.

1991年

J.No.19 小尾恵一郎,
「重層市場における順位均衡モデルの集計について」15P.

J.No.20 河井啓希,
「家計分布の変化と消費構造」50P.

J.No.21 松野一彦,
「離散的選択のモデルについて」22P.

J.No.22 宮内 環,
「家計の雇用労働供給の確率モデルとその検証
家計構成員間の相互依存と雇用機会の諾否の選択 」120P.

1992年

J.No.23 菅 幹雄,
「航空輸送産業の大気汚染物質排出量の推計
産業連関表を用いた環境対策研究プロジェクト 」46P.

J.No.24 松野一彦,
「離散的選択：家計労働供給のモデルと計測」58P.

J.No.25 早見 均,
「異動発生源による大気汚染物質量の推定
自動車の場合 」32P.

J.No.26 吉岡完治・外岡 豊・早見 均・池田明由・菅 幹雄,
「環境分析のための産業連関表の作成」64P.

J.No.27 黒田昌裕・新保一成,
「CO₂排出量安定化と経済成長」34P.

1993年

J.No.28 早見 均,
「労働時間効率と生産者行動の分析」129P.

- J.No.29 辻村江太郎・續 幸子,
「3 財消費モデルにおける価格効果について」 10P.
- J.No.30 佐々波楊子・黒田昌裕・吉岡完治・馬成三・浦田秀次郎・菊池純一,
「中国沿海地区経済開発の波及効果
平成 4 年度現地調査の概要及び資料等 」 48P.
- J.No.31 松野一彦,
「二変量離散的選択による非核世帯員の労働供給モデルと測定」
53P.
- J.No.32 吉岡完治・早見 均・池田明由・菅 幹雄,
「省エネ住宅の環境負荷に対するシミュレーション分析
環境分析用産業連関表の応用 」 32P.
- 1994 年
- J.No.33 岩田暁一・藤原浩一・砂田洋志・飯田仲衛・吉田 淳,
「板寄せ法における模索過程の分析」 31P.
- J.No.34 篠崎美貴・趙晋平・吉岡完治,
「日中購買力平価の測定 日中産業連関表実施化のために 」
23P.
- J.No.35 佐々波楊子・馬成三・吉岡完治・桜本 光・浦田秀次郎・河井啓希・
黄于青,
「中国沿海開放とその波及効果」 27P.
- 1995 年
- J.No.36 篠崎美貴・池田明由・吉岡完治,
「環境分析用産業連関表・森林セクターデータの解説」 28P.
- J.No.37 早見 均,
「看護労働の供給パターン
資格取得者の供給行動と既婚女子労働との比較 」 32P.
- 2000 年
- J.No.38 早見 均・中野 諭・松橋隆治・疋田浩一・吉岡完治,
「環境分析用産業連関表 (1995 年版)」 22P.

Keio Economic Observatory Discussion Paper

- No.1 Tsujimura, K.,
“The Economic Environment and Corporate Management Systems”, 10P.
- No.2 Iwata, G., (1969.4),
“Price Determination in an Oligopolistic Market - A Study of the Japanese Plate Glass Industry”, 38P.
- No.3 Kuroda, M.,
“A Method of Estimation for the Updating Transaction Matrix in the Input-Output Relationships”, 38P.
- No.4 Maki, A., “Consumer Preferences in the United States”, 35P.
- No.5 Matsuno, K. (1981) , “Measuring Marginal Utility : The Problem of Irving Fisher Revisited”, 27P.
- No.6 Matsuno, K.(1981), “Measuring the Quadratic Utility Indicator by Means of the Principal-Earner’s Critical-Income Model for Household Labor Supply”, 27P.
- No.7 Matsuno, K. (1981), “Statistical Note on a Problem Arising in the Economic Data Compilation”, 18P.
- No.8 Kuroda, M. and Imamura, H. (1981), “Productivity and Market Performance-Time-Series Analysis(1960–1977) in the Japanese Economy”, 39P.
- No.9 Robert Evans Jr. (1983), “Worker Quality and Size of Firm Wage Differentials in Japan”, 24P.
- No.10 Kuroda, M. and Wago, H. (1982), “Relative Price Changes and Biases of Technical Change in Japan KLEM Production Model”, 57P.
- No.11 Yoshioka, K. (1982),
“ A Measurement of Return to Scale in Production : A Cross-Section Analysis of the Japanese Two-digit Manufacturing Industries form 1964 to 1978”, 75P.

- No.12 Obi, K. (1982),
 “A Study in the Theory and Measurement of Household Labor Supply-Provisional Report-Vol.1(-)”,154P.
- No.13 Obi, K. (1983),
 “A Study in the Theory and Measurement of Household Labor Supply-Provisional Report-Vol.2(-)”,122P.
- No.14 Obi, K. (1983),
 “A Study in the Theory and Measurement of Household Labor Supply-Provisional Report-Vol.3()”,113P.
- No.15 Obi, K. (1983),
 “A Study in the Theory and Measurement of Household Labor Supply-Provisional Report-Vol.4(-)”,115P.
- No.16 Obi, K. (1983),
 “A Model of Continually Heterogeneous Labor Market” ,61P.
- No.17 Ozaki,I. (1983),
 “The Impact of Energy Costs on Industrial Activity”,78P.
- No.18 Barnard Karsh, Nicholas Blain and Nihei,Y. (1983),
 “Airline Pilots Unions : Australia Japan and the U.S. An Empirical Test of Cross-National Convergence”, 27P.
- No.19 Li He Shi and Shirasago,T. (1983),
 “An Analysis of Agricultural Production Functions for the People’s Republic of China”. 26P.
- No.20 Miyauchi, T. (1987),
 “A Method of Measuring Labor Supply Probability Curve Identification of Supply Function ”, 15P.
- No.21 宮内 環 (1989.1),
 「労働の選択順位指標の推定と労働供給確率関数の識別」 15P.
- No.22 施 礼河 (1989.6),
 「日中経済構造の比較 日中対応 - 0表を通して 」 53P.

- No.23 Hayami, H. (1989),
“Dynamic Properties of Inter-industry Wages and Productivity Growth”, 20P.
- No.24 閻 子民 (1989.7),
「中日消費構造から中国未来生産構造の変化を見る 中日産業連関表による分析」 12P.
- No.25 早見 均 (1991),
「わが国の労働時間とその効率関数の推定 労働時間短縮のシミュレーション」 22P.
- No.26 宮内 環 (1991.10),
「KE0 モデル における時間当たり実質賃金率の内生化 労働市場の順位均衡モデルの接続」 28P.
- No.27 Nakajima, T. (1991.12),
“ A Note on How to Reduce Labor Hours”, 12P.
- No.28 Kuroda, M. (1992.2),
“Economic Growth and Structural Change in Japan : 1960-1985”,
129P.
- No.29 早見 均 (1992.3),
「労働時間効率関数表の推定とその方法」 41P.
- No.30 Nakajima, T. (1992.4),
“A Consideration on How to Reduce Labor Hours”, 16P.
- No.31 Nakajima, T. (1992),
“A Model of A Firm’s Investment Behavior”, 20P.
- No.32 Nakajima, T. (1991.12),
“A Theory of Economies of Diversification”, 19P.
- No.33 新保一成・宮内 環・中島隆信・早見 均(1992),
「KE0 モデル の内容：方程式体系の推定およびモデルのテスト」
28 P .

- No.34 宮内 環(1992.9),
「家計の労働供給のモデル 夫婦家計の二者選択一モデルと四者択一モデル」63P.
- No.35 黒田昌裕・新保一成 (1992.10),
「CO₂排出安定化と経済成長」27P.
- No.36 Iwata, G. (1994.8),
“An Options Premium Model with Heterogeneous Expectations”,
25P.
- No.37 池田明由・菅 幹雄(1994.12),
「固定発生源による大気汚染物質排出量の推計 環境分析用産業連関表の作成にむけて」45P.
- No.38 西川俊作(1995.2),
「幕末期貨幣流出高の藤野推計について：批判的覚書」27P.
- No.39 Hayami,H., Kiji, T. and Wong, Y.C.(1995.4),
“An Input-Output Analysis on Japan-China Environmental Problem(1)
: Compilation of the Input-Output Table for the Analysis of Energy
and Air Pollutants”, 19P.
- No.40 Kuroda, M. and Wong, Y. C.(1995.4),
“An Input-Output Analysis on Japan-China Environment Problem(2)
: Issues in the Joint Implementation Program”,19P.
- No.41 Yoshioka,K., Hayami,H. and Wong,Y. C. (1995.4),
“An Input-Output Analysis on Japan-China Environment Problem(3)
: Why SO_x Emissions are high in China ? ”, 15P.
- No.42 Yoshioka,K., Hayami,H., Ikeda,A., Fujiwara, K. and Wong,Y. C.
(1995.5) “Interdependency of Economic Activity and CO₂ Emission”,
48P.
- No.43 清水雅彦・池田明由(1996.10),
「接続国際産業連関表の作成と課題 1985年表と1990年表の接続に
向けて」21P.

- No.44 清水雅彦・池田明由(1996.10),
「接続国際産業連関表に基づく分析の視点と手法」23P.
- No.45 Nakajima, T., Oda, K. and Takahashi, T. (1996.11), “ Total Factor Productivity of the Japanese National Railways Based on the “ 3T ” Activities”, 32P.
- No.46 Yoshioka, K., Uchiyama, Y., Suga, M., Hondo, H.and Wong, Y. C.. (1996), “An Application of The Input-Output Approach in Environmental Analysis : Estimating the CO₂ Emission of Fossil-Fuel and Nuclear Power Generation”, 33P.
- No.47 篠崎美貴・和気洋子・吉岡完治 (1997),
「中国環境研究 日中貿易と環境負荷:中国の場合,貿易自由化はSOx排出量を下げるのではなか」25P.
- No.48 Nakajima,T.(1997.4),
“How to Measure Product Quality under Monopolistic Product Market”, 13P.
- No.49 Nakajima,T.(1997), “Quality of Labor and Inter-Industry Wage Differentials”, 33P.
- No.50 砂田洋志(1998.6),
「日本の先物市場における日中効果」16P.
- No.51 Moriizumi,Y.(1998), “Current Wealth , Housing Purchase and Private Housing Loan Demand in Japan” , 33P.
- No.52 溝下雅子・中野 諭・吉岡完治 (1998.10) ,
「環境分析用産業連関表応用 : ITS の CO₂ 負荷計算」34P.
- No.53 野村浩二(1998.10) ,
「資本サービス価格の計測」56P.
- No.54 早見 均(1999.9) ,
「Propagation と Impulse 問題におけるランダム要因 : Langevin および Fokker-Planck 方程式の動学的価格方程式への応用」31P.

- No.55 野村浩二・宮川幸三(1999.12) ,
「日米商品別相対比価の計測 日米貿易構造を通じた価格の相互依存の
もとで 」43P.
- No.56 中野 諭(2000.1) ,
「アクティビティ別 CO₂ 排出量の推計 1995 年環境分析用産業連関表
の作成 」27P.
- No.57 野村浩二(2000.6) ,
「家計部門における用途別エネルギー消費関数の計測と炭素税賦課によ
る影響」27P.
- No.58 中島隆博(2000.11) ,
「稲作農家における絶対的危険回避度の推定 平均 - 分散モデルによる
実証分析 」18P.
- No.59 熊谷善彰・新井 啓・岩田暁一・新井益洋(2000.12) ,
「わが国商品先物市場における海外相場との裁定関係の検証」19P.
- No.60 辻村和佑・溝下雅子(2001.7) ,
「資金循環分析：金融連関表の作成とその応用」36P.
- No.61 辻村和佑・溝下雅子(2001.7) ,
「資金循環分析：金融連関表の負債アプローチと資産アプローチ」53P.
- No.62 Hayami, H. (2001.7), “ Price Stability and the Inter-industry
Propagation of Stochastic Impulse : Formulating dynamic price
Equation and an application of the Langevin equation”, 31P.
- No.63 辻村和佑・溝下雅子(2001.7) ,
「株式保有制限の資金循環分析」23P.
- No.64 辻村和佑・溝下雅子(2001.8) ,
「資金循環分析：金融連関表の三角化」19P.
- No.65 Hayami, H. and Matsuura, T. (2001.8), “ From ‘ life-time ’ employment
to work-sharing : Fact findings and an estimation of labour
Demand for part-time workers in Japan”, 36P.

- No.66 辻村和佑・溝下雅子(2001.8) ,
「日本銀行による量的緩和政策の資金循環分析」 18P.
- No.67 Tsujimura, K. and Mizoshita, M. (2001.10), “ Frow of Funds
Analysis : BOJ Quantitative Monetary Policy Examined”, 20P.
- No.68 Kuroda, M. and Nomura, K. (2001.10), “ Technological Change
And Capital Accumulation in Japan”, 37P.
- No.69 Tsujimura, K. and Mizoshita, M. (2002.1), “ Frow of Funds
Analysis : The Triangulation and The Dispersion Indices”, 16P.
- No.70 辻村和佑・溝下雅子(2002.3) ,
「バブル崩壊過程における資金循環構造の変動」 37P.
- No.71 辻村和佑・溝下雅子(2002.3) ,
「住宅金融公庫廃止後の融資スキームに関する一試案 資金循環分析
からの提案 」 23P.
- No.72 Tsujimura, K. and Mizoshita, M. (2002.6), “ European Financial
Integration in the Perspective of Global Flow of Funds”, 31P.
- No.73 柳 赫・早見 均(2002.5) ,
「光ファイバーの構造とケーブルの敷設によるCO₂負荷」 63P.
- No.74 野村浩二(2002.5) ,
「鉱物資源の多国間一般均衡モデルの構築と資源政策 銅地金/鉛石の
国際寡占市場における分析」 49P.
- No.75 Hitoshi, H. and Nakamura, M. (2002.7), “ CO₂ Eemission of an
Alternative Technology and Bilateral Trade between Japan and
Canada : Relocating production and an Implication for Joint
Implementation”, 34P.
- No.76 Nakano, S. and Asakura, K. (2002.7), “ Environmental Simulation
For China : Effects of 'Bio-coal Briquettes'”, 22P.
- No.77 疋田浩一・中野 諭・吉岡完治(2002.8) ,
「既存水道設備を利用した温水供給システムのLCA」 23P.

- No.78 辻村和佑・溝下雅子(2002.10) ,
「外国為替平衡操作と不胎化政策の効果に関する資金循環分析」 26P.
- No.79 辻村和佑・溝下雅子(2002.12) ,
「資本としてのロボットに関するパイロットスタディー」 36P.
- No.80 野村浩二(2002.11) ,
「資本の測定概念」 42P.
- No.81 鷺津明由・山本悠介(2002.12) ,
「アジア諸国の環境家計簿比較分析: E D E N1990の推計結果を用いて」
24P.
- No.82 溝下雅子(2003.1) ,
「家計の金融資産保有と資金波及」 41P.
- No.83 辻村和佑・溝下雅子(2003.3) ,
「我が国の地域資金循環分析」 20P.
- No.84 Tsujimura, K. and Mizoshita, M. (2003.3), “ How to Become a Big Player
In the Global Capital Market - A Flow-of-Funds Approach - ”, 44P.
- No.85 早見 均(2003.3) ,
「就業形態別労働需要モデルの再検討とシミュレーション」 29P.